

近世人物誌

やまこ新聞附録

金瓶大黒の娼妓 一、茶
 申古の故の許驛より新吉原へ移る自
 金瓶大黒抱一持女全紫の持る高橋
 幸と稱、始の柳橋かゝりて半王の娼妓
 なり。元治元年秋七月同様の抱一あり
 慶應二年五月三日目金紫の突出一ありて
 仲の町へ出ると静、唱ふ二世金紫根引
 の徳伴、過ふの後三日目金紫の妹
 娼妓と稱、静の名を予ててを突出
 其母存き、静江を突出一、井間入元
 の突出一とせし事、其全盛想ふまじかり
 一年吉原近傍洪水の事あり、小臨、同樓
 一、二の娼妓と謀り、入武百圓を罹災の
 窮民へ施與、東京府廳より木盃、個
 白細言、死を賜りたり、或時天下有
 名、商より根引の相談あり、全
 額の差等より、由て整へて、其娼妓と
 て、家商より、入武百圓を送り、が、手
 だ、小觸れね、茶屋、仲裁して、之を燈籠
 入費の寄附と爲さ、りたり、明治五年
 遊、解散の令あり、や、白入、河、め、め
 實、母、の方、度、砂糖、菓、の、妻、を
 り、り、り、離、縁、と、な、り、後、富、田、の、芝
 居、茶、屋、を、開、き、家、号、と、三、州、屋、と、呼、び
 一時、盛、ん、を、都、合、あり、て、之、を、廢、業
 一、た、り、蓋、本、四、同、様、遊、客、の、餘、興、を
 一、た、り、蓋、今、様、を、舞、の、姿、あり、て、あり、り、り



發行所 東京 京橋區 尾張町貳丁目番地 如まこ新聞社 特筆兼 奥隅 飲二 編輯人 中泉政太郎

寸穢半圓活刀

香六 5555